

●上映劇場

「午前十時の映画祭15」は、以下の劇場に於いて開催され、作品はグループA・Bで交互に上映されます。※但し「七人の侍」は全国同一スケジュールで上映いたします。

GROUP A		GROUP B	
北海道 札幌シネマフロンティア	愛知 ユナイテッド・シネマ 豊橋18	岩手 中央映画劇場	愛知 TOHOシネマズ 津島
宮城 TOHOシネマズ 仙台	愛知 ミッドランドスクエア シネマ	宮城 イオンシネマ新利府	愛知 ミッドランドシネマ 名古屋空港
栃木 ユナイテッド・シネマ アシタウンあしかが	石川 イオンシネマ金沢	山形 ムービーオンやまがた	富山 TOHOシネマズ ファボーレ富山
埼玉 ユナイテッド・シネマ ウニクス秩父	三重 イオンシネマ桑名	栃木 TOHOシネマズ 宇都宮	京都 京都シネマ
千葉 MOVIX柏の葉	大阪 TOHOシネマズ くずはモール	茨城 シネプレックスつくば	大阪 高槻アレックスシネマ
千葉 TOHOシネマズ 市原	大阪 大阪ステーションシティシネマ	埼玉 こうのすシネマ	大阪 TOHOシネマズ なんば
千葉 シネマサンシャインユーカリが丘	大阪 TOHOシネマズ 泉北	埼玉 TOHOシネマズ ららぽーと富士見	大阪 TOHOシネマズ ららぽーと門真
東京 グランドシネマサンシャイン 池袋	兵庫 OSシネマズ神戸ハーバーランド	千葉 TOHOシネマズ 市川コルトンプラザ	兵庫 TOHOシネマズ 西宮 OS
東京 TOHOシネマズ 日本橋	和歌山 ジストシネマ和歌山	千葉 京成ローザ10	岡山 TOHOシネマズ 岡南
東京 TOHOシネマズ 立川立飛	鳥根 T・ジョイ出雲	東京 TOHOシネマズ 錦糸町 オリナス	広島 福山駅前シネマモード
東京 TOHOシネマズ 南大沢	香川 イオンシネマ宇多津	東京 TOHOシネマズ 新宿	愛媛 シネマサンシャイン重信
神奈川 TOHOシネマズ 海老名	福岡 kino cinéマ天神	東京 イオンシネマ多摩センター	福岡 小倉コロナシネマワールド
神奈川 TOHOシネマズ 小田原	福岡 TOHOシネマズ ららぽーと福岡	神奈川 TOHOシネマズ ららぽーと横浜	福岡 ユナイテッド・シネマ なかま16
山梨 TOHOシネマズ 甲府	佐賀 イオンシネマ佐賀大和	神奈川 TOHOシネマズ 上大岡	長崎 TOHOシネマズ 長崎
長野 松本シネマライツ	大分 TOHOシネマズ 大分わさだ	長野 長野グランドシネマズ	熊本 TOHOシネマズ はまぜん
静岡 シネマサンシャインららぽーと沼津	鹿児島 天文館シネマパラダイス	静岡 静岡東宝会館	宮崎 宮崎キネマ館
静岡 TOHOシネマズ 浜松		岐阜 TOHOシネマズ 岐阜	

●上映スケジュール

GROUP A		GROUP B	
上映期間	作品タイトル	上映期間	作品タイトル
10/17(金)～11/6(木)	七人の侍 [新4Kリマスター版] 4K	10/17(金)～11/6(木)	七人の侍 [新4Kリマスター版] 4K
11/7(金)～11/20(木)	アマデウス [4Kレストア版] 4K	11/7(金)～11/20(木)	ウエスト・サイド物語
11/21(金)～12/4(木)	ウエスト・サイド物語	11/21(金)～12/4(木)	アマデウス [4Kレストア版] 4K
12/5(金)～12/18(木)	シザー・ハンズ 4K	12/5(金)～12/18(木)	ニュー・シネマ・パラダイス
12/19(金)～2026/1/1(木)	ニュー・シネマ・パラダイス	12/19(金)～2026/1/1(木)	シザー・ハンズ 4K
1/2(金)～1/15(木)	スタンド・バイ・ミー	1/2(金)～1/15(木)	ショーシャンクの空に 4K
1/16(金)～1/29(木)	ショーシャンクの空に 4K	1/16(金)～1/29(木)	スタンド・バイ・ミー
1/30(金)～2/12(木)	2001年宇宙の旅 4K	1/30(金)～2/12(木)	時計じかけのオレンジ 18+
2/13(金)～2/26(木)	時計じかけのオレンジ 18+	2/13(金)～2/26(木)	2001年宇宙の旅 4K
2/27(金)～3/12(木)	レオン 完全版	2/27(金)～3/12(木)	パルプ・フィクション 4K
3/13(金)～3/26(木)	パルプ・フィクション 4K	3/13(金)～3/26(木)	レオン 完全版

※各作品2週間上映 (但し「七人の侍」は3週間上映となります)

※4K表記の作品は4Kレストア素材です。劇場により4Kでの上映ができない場合もあります。ご覧になる劇場に直接お問い合わせのうえご確認ください。

絶賛開催中! 2026年3月26日(木)まで!

上映開始時間と料金は各劇場に確認をお願いします。

※劇場ごとに上映開始時間と料金が異なります。詳しくは各劇場へお問い合わせいただくか、公式サイトでご確認ください。

【作品選定委員】襟川クロ 戸田奈津子 町山智浩 笠井信輔 武田 和 (敬称略)



主催：公益財団法人川喜多記念映画文化財団 一般社団法人映画演劇文化協会 運営：「午前十時の映画祭」実行委員会

協力：(有)アレックス、(株)イウォレ京成、イオンエンターテイメント(株)、(株)オー・エンターテイメント、OS(株)、大阪ステーションシネマ共同事業体、(株)北原、(株)kino ciné、(株)京都シネマ、(株)コロナワールド、佐々木興業(株)、札幌シネマフロンティア、(株)松竹マルチプレックスシアタース、(株)中央映画劇場、(株)ディ・ジョイ、(株)天文館、(株)東京楽天地、TOHOシネマズ(株)、中谷商事(株)、中日本興業(株)、日映(株)、(株)フューレック、NPO法人宮崎文化本舗、(株)MOVIE ON、(株)ローソン・ユナイテッドシネマ、東宝東和(株)、映画.com(株)、(株)シネマコネクト



詳しくは公式サイトで! asa10.eiga.com



川喜多記念映画文化財団

映画演劇文化協会



YouTube



ミックス
紙に責任ある森林
管理を支えています
FSC® C169462

「七人の侍」©TOHO CO., LTD. / 「アマデウス」©1984 Teatro Della Pace Films. All Rights Reserved. / 「ウエスト・サイド物語」©2024 Metro-Goldwyn-Mayer Studios Inc. All Rights Reserved.
「シザー・ハンズ」©1990 Twentieth Century Fox Film Corporation. All rights reserved. / 「ニュー・シネマ・パラダイス」©1989 CristaldFilm
「ショーシャンクの空に」©1994 Castle Rock Entertainment. ©Dividen Productions/PeepShow Pictures. ©2004 Warner Bros. Entertainment Inc. All rights reserved.
「スタンド・バイ・ミー」©1986 Columbia Pictures Industries, Inc. All Rights Reserved. / 「2001年宇宙の旅」©1968 Warner Bros. Ent. All rights reserved.
「時計じかけのオレンジ」©1971 Warner Bros. Entertainment Inc. All Rights Reserved. / 「レオン 完全版」©1994 GAUMONT / LES FILMS DU DAUPHIN / 「パルプ・フィクション」©1994 Miramax, LLC. All Rights Reserved.

15th Anniversary

午前十時の 映画祭15

デジタルで甦る永遠の名作

七人の侍 [新4Kリマスター版] 4K
アマデウス [4Kレストア版] 4K
ウエスト・サイド物語
シザー・ハンズ 4K
ニュー・シネマ・パラダイス
スタンド・バイ・ミー
ショーシャンクの空に 4K
2001年宇宙の旅 4K
時計じかけのオレンジ R18+
レオン 完全版
パルプ・フィクション 4K



七人の侍

©TOHO CO., LTD.

『七人の侍』——そこに至る道

今回「午前十時の映画祭15」で上映される『七人の侍』は以前に「午前十時の映画祭」で上映されたものを更にブラッシュアップした「新4Kリマスター版」になります。以前のものも勿論品質に問題があったわけではなく、十分に高いクオリティのプリントでしたが、今回のものは音も含めた細部に更に手を入れたものです。『七人の侍』は海外での評価も高く、世界の映画ファンや映画関係者の投票による映画史上ランキングにおいても何度もトップテンに選ばれた実績があります。巨匠と呼ばれた黒澤明監督による、娯楽時代劇大作なのですが、一体この不世出の作品はいかにして作られることになったのか。この作品が作られるまでの時代背景を見てみることにしましょう。

◆GHQに翻弄される映画会社「東宝」

1930年代以降、日本には多くの映画会社が乱立していました。その中で新興勢力だった東宝は明るい娯楽映画と特殊撮影技術などで存在感を増していましたが、そんな中、太平洋戦争が起これ、映画会社は自由に映画を作ることができなくなり、「国策映画」「国威発揚映画」と呼ばれる、軍が主導する映画が作られるようになります。代表的なものに、山本嘉次郎監督、円谷英二特撮による東宝作品『ハワイ・マレー沖海戦』(1942年)があります。円谷英二の特撮の出来は素晴らしく、実写と組み合わせられたミニチュア特影シーンは戦後に映画を見た米軍関係者が実写と信じ込んだというエピソードを残しています。しかしながら、こうした国策映画の製作は終戦後、日本を占領統治していたGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)による映画会社の役員たちの「公職追放」という形でしっぺ返しを受けることとなります。公職追放というのは、戦争中に軍に協力した人間を要職につけなくするという、言わば自宅謹慎のような措置です。戦前からの企業を解体し、世代交代をさせようというGHQの意図があり、実際に多くの要人が公職追放となったことを機に引退しています。しかしながら、戦争協力者という定義は非常に曖昧でした。1947年各映画会社からは全部で31名の役員の公職追放が行われ、その中には東宝の森岩雄、松竹の城戸四郎という映画製作のトップも含まれていました。しかも東宝は31名中の13名と4割を占め、高い技術で戦争映画を作れたことが仇となる結果となります。この公職追放には前述の『ハワイ・マレー沖海戦』の特撮監督、円谷英二も含まれていました。実写と見紛う精緻な特撮映像を作ったことが戦争協力者ということに当てはまるとはいかにも無理があると思いますが、多くの映画関係者は戦争に負けるという意味を苦く噛み締めたことでしょう。後にこの公職追放についてはアメリカ本国でも不適切なものだったのではという批判がされています。更にGHQは労働組合の結成を後押しし始めます。これは軍国主義の中で過酷な条件で働かされていた労働者を団結させ、経営者たちに環境改善を要求させようという意図によるものでした。多くの役員が退陣し、何千人という社員が1946年に労働組合を結成した東宝では労働組合の力が拡大し、ストライキも行われるようになり、組合の許可がなければ撮影ができないという事態が起きます。組合に反対する勢力も現れ、「新東宝」という別会社が作られます。結果的に労働組合の勢力が大きくなり過ぎたことに危機感を抱いたGHQは方針を大転換。1948年、撮影所をロックアウトした組合側と警察庁予備隊、更には米軍までが出動して睨み合う一触即発の事態となります。最終的に衝突はなく、一連の騒動は終わりますが、これが「東宝争議」と呼ばれ、戦後最大の労働争議といわれた事件です。争議は終わったものの、東宝は映画製作ができるような状態ではなく、多くのメインスタッフが他社で仕事をするようになります。本格的に東宝が映画製作を再開するのは森岩雄が公職追放を解かれて復帰した1951年以降になります。再生への一歩をどう進めていくか、東宝の首脳陣は頭を痛めていました。

◆映画監督黒澤明の足取り

東宝の若き映画監督としての黒澤に大きな影響を与えたものが2つあります。一つは若くから読み込んだロシア文学です。元々、最初に職業にしようとしていたのがプロレタリアート画家だった黒澤は、徹底的にロ

シア文学を読破し、その傾倒ぶりはかなりのものでした。後年「ロシア文学に関してはどんな文芸評論家と論争しても勝つ自信がある」と豪語するほどでした。そしてもう一つ、大きな影響を受けたと自ら語っているのがアメリカの映画監督ジョン・フォードであり、特に彼が作った西部劇でした。スケールの大きなハリウッドの西部劇は日本の若手監督にとってまさに憧れであったに違いありません。ロシア文学の映画化、娯楽大作の監督、どちらも黒澤にとっては夢だったのです。とはいえ、ロシア文学を原作にした映画にしろ、スケールの大きな娯楽映画にしろ、東宝の一若手監督である黒澤明にそれを実現させる力はまだありませんでした。『姿三四郎』(1943年)でデビューを飾った黒澤はそのテンポの良い演出で評価されていましたが、まだまだ一人の新人監督に過ぎなかったのです。また脚本作りでは助監督時代に書いた「達磨寺のドイツ人」が高く評価されて、脚本家としても才能を認められていた黒澤でしたが、自分ひとりで脚本を書き、自分で演出するというスタイルにはそもそも疑問を持っていました。脚本と監督を一人で行うことで、作品が独りよがりになることを警戒していたのです。自分と同じようにロシア文学や他の文学作品に明るく、冷静に脚本を見ることができ、そんな脚本家がいて、共同で脚本作りができれば良いのだがと。実はその脚本家はすぐ近くにいたのです。同じ東宝の社員である小国英雄です。小国は黒澤の六歳年上。黒澤は小国が最高のパートナーとなる脚本家だと知り、起用を切望しますが、当時の小国は超売れっ子で「日本一脚本料の高い脚本家」を自認する存在。若手監督である黒澤の要望が叶えられることはありませんでした。



組合の意見を聞き入れながら「わが青春に悔いなし」(1946年)などの作品を監督し、着々と評価を上げていった黒澤でしたが、労働争議の後、結局東宝では映画を撮るのは難しく、仲間と「映画芸術協会」を立ち上げ、他社で映画を撮ることになります。新東宝、大映、松竹といった他社での仕事が始まります。砦の東宝撮影所を離れ、不慣れな撮影所での仕事は不自由なものだったのでしょうか。実はそうではありませんでした。黒澤は他社で存分に羽根を伸ばし、自由に映画を作り始めたのです。東宝の新鋭監督に気を使う他の映画会社に対し全く遠慮がありませんでした。「借りてきた猫」のように振舞うどころか、セツに金を掛け、ヒットが難しいと思われるような題材を選び、ついには念願のロシア文学、ドストエフスキーの『白痴』を映画化。しかも四時間半という長尺作品を作り上げ、松竹を驚かせ、かつ困らせることになるのです(最終的に2時間46分に短縮される)。「白痴」(1951年)の前に大映で撮った『羅生門』(1950年)も難解な作品で、映画評論家からは一定の評価を得るものの、ヒットはしませんでした。この『羅生門』はそもそも無名の新人脚本家、橋本忍の原稿を黒澤の意見を入れて仕上げた脚本によるものでした。そして、1951年黒澤明にとっても寝耳に水のニュースが世間を驚かせることになるのです。

◆ヴェネチア映画祭グランプリ

現在世界三大映画祭といえば、「カンヌ」「ベルリン」「ヴェネチア」の3つの映画祭ということになります。しかしながら戦前から開催されていた映画祭は「ヴェネチア」のみで「カンヌ」と「ベルリン」は戦後に始まったものでした。第二次世界大戦終了後、戦争の傷跡が残るヨーロッパで文化の復興を目指し、まず「カンヌ映画祭」が創設されます。この頃、欧米においては「敗戦国復興支援」という考えが提唱されていました。第一次世界大戦の後で、戦勝国フランスが敗戦国ドイツに対して巨額の賠償金を要求し、このことがドイツの経済を破綻させ、結果的に第二次世界大戦の引き金となったとする意見が多く、敗戦国には賠償金要求ではなく、むしろ復興支援をするべきだという考えが主流となっていたのです。ヨーロッパの映画人の中にも、そうした考えに同調する人たちが存在していました。ヨーロッパの映画祭に日本映画を出品させてはどうかという動きがあり、その出品作として黒澤の『羅生門』の名が浮上します。

しかし、当時国際映画祭用に字幕をいれるのはとても時間がかかった上に、ヨーロッパと深い関係を持っていた東和商事(現・東宝東和)の川喜多長政が公職追放を受けていたことで作業はなかなか進みませんでした。それでも『羅生門』はイタリアの映画祭関係者の努力の末、「ヴェネチア映画祭」に出品されることになります。そして、思いもよらぬ結果、グランプリ受賞となるのです。どれだけ思いもよらぬ結果だったかの証拠に授賞式には日本の映画関係者は一人も出席しておらず、主催者は仕方なく、会場の近くでアジア人らしき人物に声をかけ、トロフィーを受け取ってもらったという話が残っています。グランプリ受賞の一報を受けた大映の社長永田雅一の第一声は「グランプリってなんや？」だったということです。そしてこの一連の出来事に関して、そもそも黒澤明は事前に何も聞かされていませんでした。

◆黒澤明の帰還

湯川秀樹のノーベル物理学賞受賞(1949年)に匹敵する大ニュースと言われた『羅生門』の国際映画祭グランプリ受賞は映画界の流れを一変させるものでした。一夜にして黒澤明は世界的大監督になったのです。そして東宝にとってもこれはまたとないチャンスでした。労働争議のために停滞していた会社としても「世界の黒澤」を起用して大々的に映画製作を再開することで他の映画会社と再び肩を並べることができるようです。グランプリという勲章を持って黒澤は東宝に帰ってきました。そして、その東宝復帰第一作はやはりロシア文学でした。トルストイの『イワン・イリイチの死』です。「イワン・イリイチの死」はトルストイの後期の代表作。平凡だがまずまずの成功を収めた人生を送っていた官吏、イワン・イリイチが死を目の前にして人生を振り返り後悔と絶望に陥りながら、最後にある種の達観の心境に至るという中編小説です。そして、念願だった小国

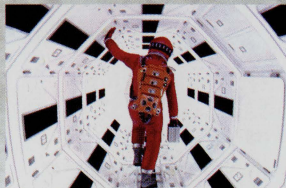
リクエスト上位作品などの人気作が続々登場！

今回「午前十時の映画祭15」はすでに過去の映画祭で上映した316作品から皆様にお選びいただいたリクエストを元に作品選定をさせていただきました。いただいたリクエスト結果は単純に合計した得票数を選定の基準にいたしました。リクエストに記載されていた年齢などを参考に分析を加えて「若い人はこの作品を推している」とか「女性はこの作品が見たいようだ」など、様々な角度から作品選定の参考にいたしました。後半の上映作品では『2001年宇宙の旅』が全体3位、『ニュー・シネマ・パラダイス』が4位、『レオン 完全版』が7位、『アマデウス』が8位です。それ以外では若手推し作品が『シザーハンズ』『スタン・バイ・ミー』『時計じかけのオレンジ』『パルプ・フィクション』の四作品。そしてベテラン映画ファンの支持が熱い作品が『ウェスト・サイド物語』と『ショーシャンクの空に』です。いずれ劣らぬ名作映画の数々。ぜひ映画館の大きなスクリーンでご堪能ください。お待ちしております。



シザーハンズ 4K

監督:ティム・バートン
出演:ジョニー・デップ/ウイノナ・ライダー
ダイアン・ウィースト
■1990年/アメリカ/カラー/105分



2001年宇宙の旅 4K

監督:スタンリー・キューブリック
出演:キア・デュリア/ゲイリー・ロックウッド
ウィリアム・シルベスター
■1968年/アメリカ/カラー/149分



ニュー・シネマ・パラダイス

監督:ジュゼッペ・トルナトーレ
出演:フィリップ・ノワレ/ジジック・ベラン
サルヴァトーレ・カンシオ
■1988年/イタリア・フランス/カラー/124分



時計じかけのオレンジ R18+

監督:スタンリー・キューブリック
出演:マルコム・マクダウェル/パトリック・マギー
エイドリアン・コリ
■1971年/イギリス/カラー/136分

英雄の起用も認められました。喜びのあまり、黒澤は小国の家に「イワン・イリイチの死。をやるぞ!」と叫びながら飛び込んできたと、小国は書いています。作品は『生きる』という題名で完成します。脚本には『羅生門』で黒澤に見いだされた橋本忍も参加していました。映画祭への出品など、全く聞かされていなかった黒澤ですが、国際映画祭でのグランプリ監督となった以上、その名に恥ずかしくない映画を撮るというプライドを強く持っていたはず。『生きる』はそれにふさわしい作品でした。海外での評価も高く、黒澤明の名声は不動のものとなりました。となれば、二作目はどうするのか。一体何を撮るのか。ロシア文学を撮った黒澤が次に目指すのであれば、それはジョン・フォードの西部劇です。日本映画においては、それはすなわち時代劇ということになります。それも「本物の時代劇」です。見得を切ったり、形だけのチャンバラではない、生身の人間同士が命をかけて戦う時代劇。小規模なものとして企画がスタートした作品は次第に野武士と農民の争い、それに加勢する侍という図式になり、スケールを増していきました。黒澤と橋本が脚本を書き、小国が読んでダメ出しをする、というスタイルで脚本作りは進んでいきました。俳優陣も侍のリーダーには『生きる』の主役を演じた志村喬。志村は当時50歳近くで、走り回る侍のリーダーを演じるにはギリギリの年齢でした。それは黒澤にしても同じこと。黒澤はこの時43歳。黒澤の右腕であるスクリプターの野上照代が後に黒澤に聞いた。「クロさん、七人の侍」もう一度撮れる?」黒澤は即答した「いいや無理だ。あの時だから出来たんだよ。体力的にもう駄目だ」と、黒澤明自身が『七人の侍』はあの時だから出来たと語っているのだ。そしてジグソーパズルの最後の1ピースのように、『生きる』では出番のなかった三船敏郎が主役として登場する。全てのピースが揃った。1953年5月『七人の侍』の撮影は始まる。それは長い長い、苦闘の始まりでもあった。

※テキスト/武田 和(作品選定委員)



アマデウス 4K

監督:ミロス・フォアマン
出演:F・マーリー・エイブラハム/トム・ハルス
エリザベス・ペリッジ
■1984年/アメリカ/カラー/161分



スタンド・バイ・ミー

監督:ロブ・ライナー
出演:ウィル・ウィートン/リヴァー・フェニックス
キーファー・サザーランド
■1986年/アメリカ/カラー/89分



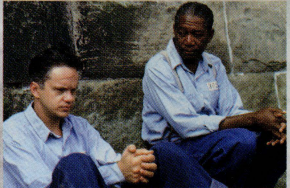
レオン 完全版

監督:リュック・ベッソン
出演:ジャン・レノ/ゲイリー・オールドマン
ナタリー・ポートマン/ダニー・アイエロ
■1994年/フランス・アメリカ/カラー/133分



ウェスト・サイド物語

監督:ロバート・ワイズ/ジェローム・ロビンズ
出演:ナタリー・ウッド/リチャード・ベイマー
ジョージ・チャキリス/リタ・モレノ
■1961年/アメリカ/カラー/156分



ショーシャンクの空に 4K

監督:フランク・ダラボン
出演:ティム・ロビンズ/モーガン・フリーマン
ボブ・ガンソン/ウィリアム・サドラー
■1994年/アメリカ/カラー/142分



パルプ・フィクション 4K

監督:クエンティン・タランティーノ
出演:ジョン・トラヴィルタ
サミュエル・L・ジャクソン/ユマ・サーマン
■1994年/アメリカ/カラー/154分

七人の侍 新4Kリマスター版 4K

監督:黒澤明
出演:三船敏郎/志村喬/木村功/藤原釜足
加東大介/千秋実/宮口精二/左ト全
■1954年/日本/モノクロ/207分

